極楽寺だより

長門市三隅下
野波瀬
0837(43)0625

御正忌報恩講ご案内

如来さまの大慈悲をあきらかにして、私たちに浄土往生の道を示して下さったご開山親鸞聖人の九十年のご苦労とご恩徳を讃え、仏恩報謝の心をよせあって、大切につとめさせていただく報恩講。

浄土真宗では、もっとも大事なご法要です。お誘いあわせお参り下さい。

一月十四日（土）昼一時半　夜七時
十五日（日）昼一時半　夜七時
夜十一時
十六日（月）昼一時半
（十六日は親鸞聖人のご命日。特に大切に勤めます。）

報恩講お斎のご案内

次の通り、お斎のご案内を申し上げます。

	十四日	十五日
昼	向山・久原・土手 中村・大竹・市・湯免 下中小野・辻並	豊原・平野・浅田・沢江上 ゲ・殿村・上東方 下東方・小島・町外
夜	野波瀬西側 （五～十三班）	野波瀬東側 （一～四班） 室生

※　十六日は、お斎はありません。
※　都合の悪い方は、指定以外の日にお参りされても構いません。

お斎の受付のおねがい

野波瀬の世話人の方は、毎年のように担当区域のお斎の日のお世話をお願いします。

年回忌表

２０１２年（平成二十四年）昭和87年に当たります。

1周忌	3回忌	7回忌	13回忌	17回忌	25回忌	33回忌	50回忌	100回忌
２０１１年 平成23年 往生	２０１０年 平成22年 往生	２００６年 平成18年 往生	２０００年 平成12年 往生	１９９６年 平成８年 往生	１９８８年 昭和63年 往生	１９８０年 昭和55年 往生	１９６３年 昭和38年 往生	１９１３年 大正２年 往生

2012(平成 24)年 1 月 16 日は、親鸞聖人の 750 回忌のご命日です。

御正忌報恩講とは

親鸞聖人の亡くなられた日をご縁として開かれる法要です。親鸞聖人は七五〇年も前に亡くなられましたが、聖人がその一生をかけて明らかにされたお念仏の教えは、それを生きる力、そして「よりどころ」とした、たくさんの念仏者を生み育ててきました。私たちの先輩方は、この御正忌という法要を一番大切にされ、人生における本当に尊いことを聴聞されました。門徒みんながこの御正忌にお参りすることが、慣わしでもあったのです。

十五日には、夜の座の後に午後十一時の通夜法座もあります。（平成六年までは、十六日朝五時のお朝事まで、徹夜でお番をするお通夜を、極楽寺でも勤めていました。）

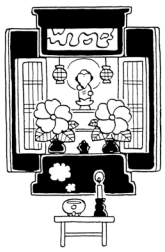
毎年御命日には、記念写真を撮っています。今年の十六日は、聖人の七五〇回忌の御命日です。

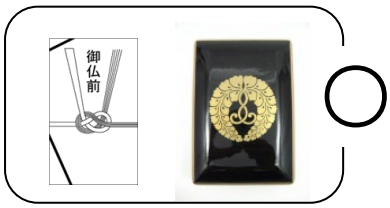
今年の十六日御命日にお参りされた皆さん

お寺のお世話をして下さる、総代・世話人の皆さんです
今年もよろしくお願いします

総代長	木村慎治さん(野波瀬)		
副総代長	小林　明さん（豊原）	総　代	山中重良さん（豊原）
総　代	藤田平二さん（仙崎）	総　代	宮崎忠彦さん(野波瀬)
会　計	松野行利さん(野波瀬)	監　査	野村昭一さん(上東方)

野波瀬西側	斉藤達男さん	市・湯免	名和田栄さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	竹林啓助さん
	宮崎忠彦さん	久原	藤村勇次さん
	黒瀬彰己さん	向山	木村重彦さん
	大田宇三郎さん	上東方	西村一夫さん
	角村信忠さん	下東方・小島	小林　昭さん
野波瀬東側	河村康昭さん	豊原	山中博道さん
	鼻野直行さん		重岡幸作さん
	石川義文さん		宮本　智さん
	田村末夫さん		石村政一さん
	岩本国久さん	平野	山中洋介さん
辻並・中小野	上田耕作さん	浅田・沢江・上ゲ・殿村	磯　昭正さん





近頃お参りにいくと、御仏前（ごぶつぜん）や御文章箱（ごぶんしょうばこ）が尊前側（そんぜんがわ）に向けられていることがあります。仏様にお供えするという気持ちからなのでしょうが、真宗の作法としてはこちら側に向けることが、慣習となっています。

この前、前長門市長さんの市葬（しそう）にお参りしたときのこと。無宗教の葬儀ということで参列者全員が献花（けんか）をしたのですが、やはり花を手前にしてお供えしていましたから、こちらの方が丁寧だという考えが今の世の中の流れになっていて、その影響によるものかと感じました。考えてみれば、お供えするのは仏様にということですから、受け取る側に向けるというのは一理あるのかもしれません。

しかし、東井義雄（とういよしお）先生はこのように言われています。

「親鸞聖人の書かれたものを見ますと、「然（しか）り」と読むところを「然らしむ」と読まれ、「回向（えこう）す」と読むべきところを「回向せしめたまふ」と読まれています。親鸞聖人は、阿弥陀様を、私たちの向こうではなく、私たちをあらしめて下さっているものとして、いただいておられたのではないかと思われてなりません。地上に見えている樹（き）を、見えないところで支え、あらしめている根っ子としていただいておられたのではないかという思いがするのです。」（『家にこころの灯を』）

つまり、私がお供えしているのではあるけれども、実は私をお供えする身に育てて下さった世界があることへの気づきを、親鸞聖人は大切にされたのです。

近頃は、派手（はで）なパフォーマンスや言動（げんどう）ばかりが取り上げられる自己主張（じこしゅちょう）の時代です。自分の思いをどう表現できるかということが、学校でも大切にされているようです。ところがその流れが強くなるほど、「縁の下の力持ち」という言葉を聞くことができなくなり、「見えないところで支え」て下さっている人々への敬意（けいい）も失われてきました。これは本当に恐ろしいことだと思います。

確かにお仏壇にお供えするのは私です。しかし、私たちの先輩方は、「私から」ということよりも、私を「見えないところで支え、あらしめている」世界に手を合わせることを大切にされたのです。その思いが、この作法に込められているのではないでしょうか。■

オシエノカケラ
極楽寺だよりエッセイ

間違っている

3月の東日本大震災は、自然の力の大きさを思い知らされました。復旧には、まだまだ時間がかかるようです。長い目での支援が必要ですが、どこかもう過去のことのようにしている自分に気づかされ、情けない思いもしています。ひとごとではありません。みんな、いつどうなるかわからない身です。こんな時だからこそ、「お互いさま」という言葉の大切さを噛みしめたいものです。

しかし、本当に想定外の出来事でした。同時に、以前「極楽寺だより」でも紹介しました思想家藤田省三さんの言葉を思い出しました。

「山というものは、本来厳しさと優しさというものが共在している場であった。山のおかげで私たちはそこからいろいろと恵みを受けている。同時に山は、一歩まちがえば命を奪われるほどに、非常に恐ろしい場所でもある。そこから人々は、決して山をあなどらない、山の前に謙虚であることを学んできた。ところがその山に観光道路が頂上まで通されたことによって、山は決して危険なものではなく、安全な遊園地の延長になってしまった。」

藤田さんは、自然を自分の気分を広げ、自分の気分にかなう場にしてしまったことで、自然

極楽寺ホームページ

極楽寺.com で検索して下さい。

継職法要のビデオや、雅楽バンド『インセンス・スティック』のライブ映像も、見ることができるようになりました。

極楽寺だよりを送りませんか

極楽寺では、都会に出られているご門徒の方や家族の方々に有縁の方々に、極楽寺だよりをお送りしています。都会の子どもさんやお孫さんに、送られてはどうでしょう。連絡先を教えていただければ、お寺から直接、お送りいたします。

は命を共に通わせながら生きる存在ではなく、人間の欲望を満たすための道具になってしまったと指摘されます。ならば、私たち人間の傲慢（ごうまん）さこそが、自然の脅威（きょうい）を想定（そうてい）の外に置いてしまったのではないでしょうか。考えてみれば、魚を海産資源と呼び、樹木を森林資源と言い、人は人的資源、景色は観光資源と、すべてを経済の見方で、人間の持ち物のように考えることが当たり前になりつつある世の中です。そこには、自然の恵みをいただいて生きていくという謙虚さや、人間の限界を受け止める自覚は全くと言っていいほど感じられません。この人間の傲慢さが、本来恐れ、敬うべきものを想定外にしてしまったのでしょう。これも、ひとごとではありません。「私も、その人間の一人である」と深く自覚する生き方を、私は親鸞聖人から教えられました。

もちろん、経済問題や景気回復は大切な問題です。しかし、私たちはもう気づいているはずです。景気が回復すれば、すべてが解決するというのは間違いだということを。一人ひとりが、自分の生き方を見つめ直すべき時に来たことを。

毎日新聞（十月十日）のコラム『風知草』に、福島の原発震災をめぐる講演とインタビュー・座談で構成された『クロニクルＦＵＫＵＳＨＩＭＡ』という本が紹介されました。核心のメッセージは「こっちへ来て現実を見てみろよ」だそうです。そしてそのコラムは、以下の言葉で結ばれています。

「それはそれ、と言わんばかりに東京では経済成長と原発輸出が論じられている。

間違っていると私は思う。」

私もそう思うのですが、皆さんはどうでしょうか。親鸞聖人はどう思われるのでしょうか。秀

東日本大震災の被災者に

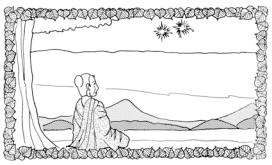
未使用 ホッカホカ カイロ

を送ろうキャンペーンに

ご協力有り難うございます！

現在、目標の一万個を突破し、被災地へ送りました。極楽寺だけで、二千個集まりました。

しかし、千人に配れば一人十個にしかなりません。東北の寒い冬に、せめてもの温かさを送りたいものです。これからも、集めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。



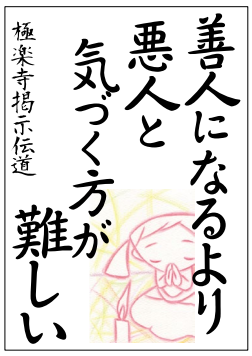
極楽寺掲示伝道
けいじでんどう

12月の言葉

今年も、もうすぐ終わりです。皆さんにとって、この一年はどんな年だったでしょうか。うれしいこと、楽しいこと、悲しいこと、苦しいこと。いろんなことが、それぞれあったことでしょう。でも、「ありがとう」「生まれてきてよかった」と思えるような一年を過ごすことができたのであれば、それは本当に素晴らしい年だと思います。また、そうでない方も、悲しみ、苦しみが後の糧になれば、それはまた素晴らしい年だと振り返ることができるのではないでしょうか。

近頃、「昔はみんな貧乏だったけど、今よりずっと幸せだったような気がします」という声をよく聞きます。確かに、昔よりも物質的には豊かになりましたが、どうも世知辛く、ギスギスとした世の中が広がっているような気がします。確かに、昔よりもよくなったことはたくさんあります。でも、貧しかったからこそ、助け合わなくてはならなかったし、だからこそ、人間関係にも広がりと深さがありました。「ありがとう」と感謝し、いろんな人との出遇いの中で「生まれてきてよかった」と実感する場面もたくさんあったことでしょう。だからといって、昔に戻ることはできません。しかし、心の眼を育てていくならば、「ありがとう」「生まれてきてよかった」と感じる場面は、たくさん見つかるはずです。その心の眼を育てて下さるのが仏法だと、教えられるのです。

この言葉は、何も死ぬ前のことを考えようということではありません。死という大きな区切りを通して、今「ありがとう」「生まれてきてよかった」と言える人生を送っているのかが問われるのです。私たちは、何か区切りがなくては、今を見つめることなど、なかなかできません。一年を振り返るこの年末という区切りに、仏様の光に照らされて、自分の生き方を見つめ直してみたいと思います。■



11月の言葉

今月の言葉を読んで、「えっ？」と思われた方はありませんか。「善人になるのは努力しなくてはならないけれど、悪いことなんて簡単にできる」と思われるかもしれません。しかし、今の世の中善人だらけと言った方が良いのではないでしょうか。テレビを見るとニュースやワイドショーでは、善人のコメンテーターがいつも誰かを悪者にして裁き、政治討論会では「俺が正しい」「お前は間違っている」と善人同士がののし

り合っています。そう言っている私が、一番善人面しているのかもしれませんが。自分の愚かさ、弱さを受け止めることは、なかなか難しいようです。おかげで、「アイツのせいで、俺はこんなに嫌な思いをしている」といった被害者意識ばかりが強い、攻撃的で殺伐とした人間関係が広がっているのではないでしょうか。

宮城顕という先生から、こんな話を教えられました。

隣り合ったAとBという家がありました。A家では、いつも喧嘩ばかり。B家は、仲良く暮らしています。A家のおばあちゃんがたずねました。「どうして、仲良く暮らせるの？」B家のおばあちゃんは、こう答えたそうです。「あなたの家は、善人ばかりだからよ」。何かにつまづいても、「誰だ！こんなところに荷物を置いた奴は！」「気をつけない、あなたが悪いんじゃないの！」と、自らが正義となって相手を攻撃していく。だから喧嘩ばかり。「でも、うちは悪人ばかりだからね。」何かにつまづいても、「大丈夫？ごめんね、こんなところに荷物を置いて。」「いやいや、気をつけなかった僕が悪いんだよ。」と言えるから、喧嘩はないのだと。

自らを深く振り返り、弱さ・愚かさを受け止めるからこそ、心豊かな生き方を生み出すのですね・・・などと思っていたら、とんでもない。実は宮城先生の話には続きがあったのです。

人間って、そう簡単に悪人になりきれるのでしょうか。「自分が悪かった」と口では言いながら、「オレが退いてやっているから、家の中がうまくいく」「私が悪者になったお陰で」と、いつしか自分を立て、善人面をし、人を見下しはじめるのが私たち人間ではないでしょうか。そんな思いに陥ってしまったら、ちょっとしたきっかけで爆発しかねません。その方が、傷はもっと深いでしょう、と。

宮城先生は、念仏者の家とはAでもBでもなく、「聞く」家なのだと教えて下さいました。常に常に、阿弥陀如来の光に照らし出される中で、自らの在り方を聞いていく。お念仏の響きに、自分の生き方を相談していく。失敗だらけ、間違いだらけの人生ではありますが、そんな「聞く」生活の中でこそ、素直に謝ることも、反省することもできる。本当の人間らしさ。本当の豊かな出遇いとは、そんな営みの中から開かれていくのだと。

善人面して生きていくことは、簡単です。自らの在り方をふり返りながら、弱さ・愚かさを受け止めて生きていくことは、本当に難しいことです。そんな時、お仏壇の前で手を合わせ、自分の姿をふり返る時間を持ってはどうでしょう。阿弥陀様の光は、私を照らし出して下さいます。そこは、素直に頭を下げることができる場所です。生きる上においてそんな場所があるということが、実は本当に素晴らしいことなのではないでしょうか。■

除夜の鐘つきのご案内

つきはじめ
11時50分

毎年、極楽寺では、おでんを用意して、大晦日に除夜の鐘つきを致します。

熱々のおでんをほおばりながら、新しい年が明けるのを共に味わいましょう。懐かしい人と再会できるかもしれませんよ。

打ち始め十一時五十分より。終了後、初参拝のお勤めをします。

年越しは、極楽寺で

元旦会

1月1日
朝10時から

時間は約三十分。家族全員でお参りされる家もあります。皆さんお参(まい)りいたしましょう。わが家(や)のお仏壇(ぶつだん)も打敷(うちしき)をかけて飾り、新年を迎(むか)えましょう。

ご法座には、門徒式章をつけてお参りしましょう

極楽寺 今年のご法座

◆一月一日　朝十時（毎年）元旦会

一月十四日～十六日（毎年）
御正忌報恩講

◆四月十六日～十七日
春の永代経法要
講師　広島　正覚寺住職　清胤弘英師

◆五月二十一日（毎年）
清光仏教婦人会の降誕会

◆六月二十六日～二十七日　夏法座
講師　福岡　光伝寺住職　木村大信　師

◆八月十四日～十六日（毎年）盆法会

◆九月二十三日（毎年）納骨堂追悼法要

◆十一月十二～十三日
秋の永代経法要
講師　俵山　正福寺住職　上原泰教　師

◆十二月十八日（毎年）
清光仏教婦人会の報恩講

◆十二月三十一日（毎年）
除夜の鐘つき　初礼拝

※夜の座へ、たくさんのお参りをお願いします。
※法座の日程は、お配りしたカレンダーにも載っています。